特別インタビュー

「みんなが打席に立てる野球、みんなにチャンスが与えられる野球」

王貞治氏

Sadaharu Oh
福岡ソフトバンクホークス 会長

photo by Kenshiro Imamura

代名詞である一本足打法で
通算ホームラン868本という前人未到の偉業を成し遂げ
世界にその名をはせてきた、王貞治氏。
記憶に深く刻まれた現役時代の活躍。
そして、劇的な勝利で日本代表を初代王者に導いた
WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）。
世の人々にたくさんの夢と希望を与えてきた『世界の王』が
地球の未来のために取り組むことー
それは、“誰にでもチャンスが与えられる野球”を広めていくというものだ。
野球の素晴らしさを誰よりも知る王氏だからこそ
世界に伝えること、伝わることがある。

おう・さだはる
1940年東京都出身。早稲田実業高校卒業後、読売巨人軍に入団。22年の現役生活で数々の記録を残し、77年には初の国民栄誉賞受賞。80年に引退後、読売巨人軍、福岡ダイエーホークス（現ソフトバンクホークス）の監督などを経て2009年より現職。日本代表が初代王者となったWBC2006の代表監督も務めた。

1980年に現役を引退し、翌年から指導者という立場で球界に生きてきましたが、88年、一度ユニホームを脱ぐことになりました。プロの世界に入って約30年、それ以前も含めたら、私の人生は野球そのもの。そんなことを振り返ったとき、自分を育て上げてくれた〝野球〟を通して社会に恩返しをしたいという気持ちがわいてきました。

でも自分に何ができるのかー。いろいろな人と話をする中で、まさに自分が学んできた野球の素晴らしさを、次代を担う子どもたちにも伝えていきたいと思うようになったのです。そして90年、野球を全世界に普及させていく「世界少年野球推進財団」※の設立を決意しました。

アメリカ・メジャーリーグのホームラン王、ハンク・アーロン氏との共同提唱で始まったこの活動は、全世界の子どもを対象としています。アジアやアフリカなど地球上にはまだまだ野球を知らない国がたくさんある中で、もっと多くの人に野球を楽しんでもらいたいという気持ちがとても強かったのです。また、「みんなが打席に立てる」チャンスがある平等なスポーツを世界の子どもたちに伝えたいと考えたからです。

私たちは年に1度、世界中の少年少女に、バットの振り方やボールの投げ方、盗塁、バント、内野・外野守備、スライディングといった野球の基礎を教えています。これまでに、インドネシアやフィリピン、ケニア、ウガンダ、ジンバブエ、アルゼンチンなど延べ86もの国・地域から少年少女が参加しました。

また、開催地の文化や伝統に触れる交流事業にも力を入れています。というのも、国際交流は、子どもたちにとってとても意義深いものだと考えているからです。言葉が通じなくても、子どもたちは同年代というだけですぐに打ち解けて、仲良くなるんですね。ああ、そうかー。子どもにはこういった〝場〟を与えることこそ重要なんだと。野球という一つのスポーツで、子どもたちが世界とつながって視野を広げられるー。なんて素敵なことでしょうか。

野球の力は偉大です。技術面はもちろんのこと、「体が強くなる、友達ができる、自然とルールを守れるようになる」といった、今後の人生のプラスになる多くのことを学べます。また、困難も努力次第で克服できること、アウトはアウト、セーフはセーフといった結果が必ず待っていることを体感するという経験も生きていく上で重要です。私も、身をもってこれを体験してきました。

野球の普及活動を始めて20年。監督業などと並行しながらの継続は決して楽ではありませんでしたが、長年やってこられたのは、やはり子どもたちの笑顔があったからー。そして何より、私自身が「野球はすべての人に〝チャンス〟を与えられるもの」だと知っているからです。人生を学ぶことができる野球ー。その魅力をこれからも伝え続けていきたいと思います。

※日米のホームラン王、王貞治氏とハンク・アーロン氏の提唱により、野球の普及・発展、青少年の友情と親善の輪を広げようとの趣旨で始められた世界少年野球大会を契機に設立。

世界少年野球大会では、自ら指導に当たることも
©WCBF

王氏が率いたWBC2006日本代表は見事優勝を果たした
©EPA=時事